



チャ  
白馬セミナー  
2014 来日  
先行企画

Part  
2

# 子どもの 長所・弱点を 知る方法

## ジョイス・イノウエ

通訳:(東京)スミスとも子、(大阪)淳子ブロックソム

日本で学習障害ということになると、誤診されているケースが見受けられると聞きます。和を保つことが強調される日本では、他と違ったり、和を乱すようなことがあれば、すぐにどこが悪いのではないかと、という心配が出てくる傾向があるのかもしれない。あるいは、これはアメリカでも頻繁に行われていますが、一度、ADHDと診断されれば、すぐに薬の処方という傾向もあるのかもしれませんが。診断そのものが間違っていますと、薬の副作用が出て来ますから、気をつける必要があります。

ホームスクーリングであれば、周りに合わせるのではなく、イエスさまにあって、それぞれの時に合わせて成長させていくことができるので、効果的で、素晴らしい教育法です。それぞれが抱えている特別な必要にも目を留めてあげることができます。

今回、お伝えするのは、子どもの長所・弱点を知る方法です。これは診断ではありません。つまり、皆さんは専門家ではありませんので、これによって正式な診断にはなりません。長所や弱点を知ることができます。

チャイルドD(学習障害(LD)、ADHD等への聖書に基づくサポート団体)の代表。学習障害の専門家として36年。3人の子を育て、2人の視聴覚の情報処理困難を診断、訓練、克服し、大卒、ミニストリーへと羽ばたかせる。カリフォルニア州立大学院LA校特別支援教育修士課程卒。フレズノ・パシフィック大、チア・カリフォルニア等で、特別講師。クリスチャンスクール400校余りをネット。チア・コンベンション2014、そして3年連続、チア・白馬セミナーに登場!

子どもを見る時に、私たちは時々、悪いところや困っている点にはかりフオーカスしがちです。しかし、実際は、その子どもが持っている良いところにも焦点を当てていくことが必要です。

そうすることで、お子さんが一番、的確に学ぶことができるからです。

これから紹介する方法は、親としての常識を働かせて下さい、ということとです。親である皆さんこそが、お子さんのことを一番よく分かっているからです。

## 判断力を働かせる

まずは体の状態をチェックして下さい。ちゃんと見えているか、聞こえているか、呼吸ができてきているかとは、つまり、生き生きしているかということ。また、アレルギイがないか、ちゃんと睡眠は取れているかも確認事項です。こうしたすべてのことに、まず目を向けることがとても大切なことです。親としての判断力を働かせれば、これらは確認できることですね。似た症状に見える障害が多いので、本当はその障害ではな

いのに、「これなのか」と思い込んでしまつてありますが、それは絶対避けたいことです。

また、家庭の状況はどうでしょうか。大事にしていたベットの死んでしまつたり、兄弟姉妹と競争関係に陥つてしまつている時など、こうした状況が子どもの学習や意欲に影響を及ぼします。あるいは、子どもが勉強しながらイライラしたり、全然やる気が見られず親の顔をボーッと見たりしている時に、怒つたりしていませんか。こうしたことでも、学習の雰囲気が変わってきます。お子さんは親を愛していますから、リーダーのように、親である皆さんの気持ちを察知しようとしているのです。

最も大きなチェック項目は、子どもがどのように情報を処理しているかということ。脳の中で起こっていることと関連がありますので、外見からは特に変わった点は見られません。ところが、本来見えているはずの物がしっかりと見えていなかったり、聞いたことを脳がつまみ解析できていない場合があります。

私が学習障害や言語障害、識字の

問題、自閉症といった障害に関わるようになった理由の1つは、隠れた困難が、自分の2人の子どもたちにあつたからです。他人には分からない困難があると、周りの人もまったく憐れみをかけてくれませんし、子どもたちも非常に傷つきやすくなります。隠れている場合は、親も分からないことがあります。ですから、このことを学ぶことはとても大事だと思います。

## 視覚の問題

では、始めましょう。まずは、視覚的な領域についてお話しします。これは視力の問題ではありません。視力の問題であれば、眼科医に行つて眼鏡を処方されるかされないか、それだけです。でも、見えているかどうかには、もっと深い要因があるのです。

目の見え方が脳にどのような影響を与えているかを調べる、1つの簡単な方法をお教えします。これには鉛筆やシャーペンを使います。後ろに消しゴムがついた鉛筆だと分かりやすいです。どういった実験かというと、鉛筆の消しゴム部分、あるいはシャーペンの

押す部分を子どもの顔の前で動かし、顔は動かさずに目で追ってごらんと云うのです。そして、鉛筆を時計のようにくるっと回したり、あるいは上下に動かしたり、左右に動かしたりして、目で追わせます。ここで確認したいのは、目の動きがスムーズかどうかです。

眼球が細かく震えたりしていないでしょうか。こういった症状がある時には、単語などを飛ばし読みしていたり、算数の問題で計算問題を間違えて書きうつす問題が起きているかもしれません。

もう1つの方法は、鉛筆をもって腕を伸ばしてもらいます。そして、鉛筆をほとんど鼻に近付けて来るのをじっと見てごらんと云うのです。普通は寄り目になって来て焦点を合わせるわけですが、ちゃんと正しい位置に目が寄ってこないのであれば、物が二重に見える可能性があります。こういった二重に見える障害があると、読むことに非常に疲れを覚えます。インターネットでは目を訓練するサイトもあるようですので、ぜひ調べてみたいいかがでしょうか。

では、実際に実験をして、お子さんの目が正しく寄って来ない、あるいは

目が細かく揺れる症状があった時は、どうしたらいいのでしょうか。これは、お子さんには視覚的な弱さがあるという事です。ですから、視覚ではなく、聴覚を強調して教えていくということですね。問題文などを皆さんが声に出して読んであげることをお勧めします。弱いところをまったく無視して、弱さが存在しないかのように振る舞つという意味ではなく、まずは強い部分、つまり聞く方法で勉強をさせてあげて、弱いところも少しずつ建て上げて行くように助けていくわけです。ことばで言うてあげるだけで、子どもの学習意欲もすぐく変わって来ます。

私たちには弱さと強さがあるわけですが、時々、私たちは弱いところを無理やり強くさせようとします。なぜなら、私たちは自分が習ってきた方法や、正しいと思い込んでいる方法しかないと思ひ、子どもに弱いところがあるのが悪いと決めつけがちだからです。でも、学び方にはいろいろな方法があります。

また、文字を書かなければならない時は、通常よりもたくさんスペースを作つてあげることがお勧めです。あ

るいは、答えを書かせる代わりに、口で答えさせてもいいでしょう。視覚に困難があると、書くだけですごく時間がかかってしまつてからです。

## 聴覚の問題

次は聴覚に困難があるお子さんの場合です。実際に鼓膜を通して音がどのくらい聞こえているか、という物理的なことではありません。お子さんが聞いたことをどのくらい理解しているかについてです。これは、次のようにして調べることができます。

まず、3つの長さの文章を用意します(短い文章、中ぐらいの長さの文章、長い文章)。内容はまったく関連のない文章です。これも、静かで、注意をそらせるような物が無いところで実験します。親が文章を読んであげて、その通りに正確に言ってもらいましよう。文章は子どもに見せず、耳からの情報しか与えません。

一番短い文章を正確に答えることができなければ、お子さんは言語処理に困難があるか、聴覚に障害があるか、思ひます。短い文章が大丈夫であれば、



■ リチャード&ジョイスさんの3人の子どもたち

中間の長さの文章を、静かな場所で、まったく同じようにリピートさせます。そして、お子さんが言うことばを書き出して、途中でことばが抜けていないか、聞き間違えていないかを確認してみましよう。

2番目の長さの文章で弱さが見つかったとします。この長さの文章を覚えることができないのであれば、子どもたちは勉強を教えている人のことばも理解できていないわけです。例えるなら、騒がしいレストランで、とても大事なメッセージを聞こうとしているようなものです。騒々しい場所では、ものすごく集中しなければ聞き取れないので、レストランを出る頃には疲れきっていることばでしよう。聴覚に困難があるお子さんが、注意力が散漫な振る舞いをしたり、

すごく疲れた表情をするのはそのためです。聴覚であれ視覚であれ、脳に伝達するプロセスに困難がある場合、もし子どもたちにとって、難しい方法で教えようとするなら、子どもたちの脳が一生懸命、処理しようと働かなければならないので、ものすごく疲れてしまつわけです。

聴覚の弱点が分かった時には、どうしたらいいでしょうか。この場合は、口で説明する時にも何か視覚的にサポートになるものを一緒に提供することをお勧めします。あるいは、ゆっくり話したり、話す内容を短くする、または顔の表情をできるかぎり使って、伝えたいことが正確に伝わるように努力する。録音機を使ってもいいと思います。録音機で何度も何度も同じメッセージを聞かせれば、親が繰り返さなくてもよくなりますね。これが何につながっていくかというと、チャレンジを受けているお子さんが社会人になった時に、どうやってその状況に対応していくか、どうやってその弱さを克服していくかという技術を教えることになります。

## 実行機能障害と言語の問題

多くの方が気づいていないもう一つ重要な障害は、実行機能障害です。ADHDと少し似ているのですが、実行機能障害とは、簡単に言うと計画を立てられない、あるいは、物事を組織立てて計画し、実行に移すことができないということです。時間の管理が苦手、時間内に課題を終わらせることができません。

まずはお子さんを観察して下さい。課題を与えた時に、どのくらい長がかかっているか、どこに時間がかかっているかを見ましよう。よく聞く話ですが、ゲームはすごく集中してやるのに、課題をやる時はすごく時間がかかってしまう。あるいは、得意科目を勉強する時には全然問題がないけど、子どもを注意深く観察していくことによって、なぜ課題をこなせないのかも分かってくる。

また、もう一つ難しい困難は言語の問題です。日本語が話せるかどうかという問題ではありません。文章を作

る時に、困難を覚えている場合です。

どうやってその障害が分かるのでしょうか。お子さんに何か物語を書かせてみて下さい。何を書いているかが分からず、起承転結がなかったり、文章自体が書けない場合は、要注意です。お子さんは皆さんの話している内容に、実は、ついていけない可能性があります。自分が聞き逃してしまっている単語を埋めて、意味のつじつまを合わせるために、脳がものすごく働いていますから、先ほどと同じように脳が非常に疲れています。しかも、この問題にお子さん自身が気づいていません。ですから、親の方が気づいて、弱さとなるべく回避して教えてあげることがとても大事です。

まず、最初にできることは、お子さんが話をしようとする時に忍耐して下さい。私たちがついやってしまうのは、子どもがなかなかスラスラ話せなかったりすると、代わりに言ってしまうのです。子どもがスムーズに言えない時にも、代わりに話すのは止めましょう。そうしてしまうと、今度は、子どもは他の子に言わせるようになります。

ホームスクーリングであっても、兄

弟姉妹が互いに比較し合ったりすることが起こり得ますので、チャレンジのあるお子さんに恥をかかせないために、親とのお子さんの間で秘密のサインを決めるのがよいでしょう。例えば、お子さんが耳に鉛筆を挿んだら、それは「お父さん（あるいはお母さん）、今、何の話をしているのか、全然分かりません」というサインだ、という感じですよ。

例えば、友達と一緒に映画を見に行くことです。その人に言語の処理における障害があった場合、映画を見ていても、展開が早いのであまり内容が分からないということが出てきます。でも、恐いことは映画についていけないことではありません。映画を見終わった後に、友達と映画について語り合う時です。そういう障害があった場合、どのように回避するかというと、分かった振りをするのは、「そうだね、あそこ、面白かったよね」と適当に相槌を打つのです。ホームスクーラーであっても、隠るのが上手になっていきます。しかし、このような状態は、敵であるサタンの攻撃的なのです。サタンは「こんなことが分からないの

はお前だけだぞ」と孤立感を与えるのです。また、子どもが「恐ろしいほどに奇しく（詩篇139:14）」創られたことを忘れさせてしまいます。

## 微細運動能力に 関する障害

また、微細運動能力に関する障害があります。指先で細かい作業をする能力に問題があるのです。これは、テストをしなくても、すぐに分かります。例えば、ペンを持たせてもしっかり持てない。字を書かせてもきれいに書けない。線を真っ直ぐに引くことができな。ハサミがうまく使えない。縫い物が苦手。ピースをやるのも苦手。微細運動能力が苦手なのに、こういうことをたくさんさせられると子どもは傷つきます。

そういう子は、初期段階では、鉛筆や紙を使って勉強しなくてもいいのです。コンピューターを使わせてあげて下さい。あるいは、口で言わせてあげて下さい。長所を使って教えるなら、他の子どもたちに遅れを取りません。子どもが算数の計算問題を20題はでき





■ご主人のリチャードさんと共に

なくても、2題なら完璧にできるとします。だとしたら、2題でできた段階で次に進んでいいのではないのでしょうか。学習障害の分野に入ってから40年になりますが、0歳児から大学院生までいろいろなレベルの子どもたちを見て来ました。皆さんのホームスクーリングの子どもたちと出会うたびに、尊敬の念を深めています。その皆さんに、私の経験や情報を提供することで、さらにホームスクーリングが楽しく、明るく、効果的に実を結ぶものになってほしいと願っています。学問をする時に、ドリルをただただこなすのは止めましょう。神さまのみことばを学習の中で与えていくなら、親も子どもも幸せです。

お子さんは本当に大切な尊い存在です。皆さんがお子さんに教えることができる最も大事な課題は、数学や理科や社会、国語ではありません。それは、神さまがお子さんたちに将来を持ち、そして素晴らしい目的を持っていることを教えるのです。「わたしはあなたが

たのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」(エレミヤ 29:11)。

イエスさまは理科や社会ができないからといって、あるいは聴覚や視覚に問題があるからといって、怒ったりはしませんでした。イエスさまがなさったことは、相手の心の二ースを満たすこと、それが一番の目的でした。その

人らしく生き生きと生きられるために力を与えて下さいました。私たちが子どもたちに弱さがあるからといって、神さまが失敗されたわけではありませぬ。弱さがあるということは、まさしくそれゆえに神さまにもっと頼ることを学び、神さまの栄光がそこから放たれるためなのです。まず、強さを知り、イエスさまに頼りながら、長所を強め、イエスさまを見続けるところから始めようではありませんか。◇

心も体も満ち足りた時間を、  
北アルプス・自馬山麓の自然と共に。

美しい四季に彩られた白馬山麓の奥深くに佇む通年型リゾートホテル。  
トレッキングやウィンタースポーツを楽しむアクティブな旅から、  
のんびりした滞在型のご旅行まで、多彩なプランをご提案いたします。

ALL YOU CAN EAT  
DINNER  
BUFFET

自馬山麓の美人の湯  
自家源泉かけ流しの  
浴槽でゆったり

料金 1泊2食付き  
おひとり様 **8,600円**より【税込】

※表示は5名様1室の料金です。

礼拝・集会等にご利用可能なホールもございます。団体でのご利用ほか詳細はお問合せ下さい。

**ホテルグリーンプラザ白馬**  
HOTEL GREEN PLAZA HAKUBA 〒399-9422 長野県北安曇郡小谷村千国乙12860-1

ご予約・お問合せ **0570-097-489** 【受付時間】平日 9:30-19:30 土日祝 9:30-19:30

PHS一部のIP電話・国際電話をご利用の方は専用ダイヤル 03-6833-1097

ウェブサイトもご覧ください <http://www.hgp.co.jp>